



春のお彼岸

日だまりの暖かさが日ごとに増し、
つくしやたんぽぽが心なませてくれる
うれしい季節となりました。



桜便りも聞かれる中、おでかけの計画もはずんでいることと思われま
皆様、いかがお過ごしでしょうか。



寒さもゆるみ過ぎやすくなる今月、春のお彼岸を迎えます。
今年は3月20日(日)の春分の日を中日とし、
前後7日間3月17日~23日がお彼岸となります。

お彼岸は、私達仏教徒にとって、
「日頃忙しくてなかなか仏道精進できないものの、
せめてこの一週間は仏様の教えを守り、心の修行をしましょう」という期間です。
この7日間、自分なりに仏様の教えに沿った生活を送り 善いおこないを積むことで、
ご先祖様への功德とします。

春のお彼岸に取り組みやすい修行として、
ここではいつも「無財の七施」をご提案しています。

- ④ やさしいまなざし ① 思いやりのある心くぱり
- ⑤ にこやかな顔 ② ゆずりあいの心
- ⑥ 思いやりのある言葉 ③ 気持ちのよいおもてなし
- ⑦ 思いやりのある行い



分別や執着を離れ、自分と他人を分け隔てなく、相手の気持ちになり切る
そんなお話をひとつご紹介しましょう。



ある時、一握りの土がおりました。彼は自分の生まれがよく、
土質もきわめてよかったので、「自分はきっと美しい壺にでも
仕立てられて、きれいなお姫さまに可愛いがってもらえるに
ちがない」と思っていました。ところが焼き上がったわが姿は、
それは哀れな素焼きの植木鉢だったのです。

そしてある家に運ばれ、堆肥や腐葉が押しこまれてしょげかえっていると、自分の
ことをほめてくれる人がいたのです。不思議に思ってその訳を聞いてみると、
「あなたの鉢から、世にも美しいユリの花が咲いているのですよ。そのユリの根は
あなたの中にあるではありませんか」と答えられ、植木鉢は初めて自分の存在に
気づき、心から天に感謝したといいます。

(イギリスの詩人ヴァン・ダイクの童話より)

誰しも自分自身が美しい花になりたいのが人情ですが、
大きな自然の中では自分も他人も、あらゆる生物はみんな
つながり合って生きていることを教えてくれるエピソードです。

「国民の祝日に関する法律」では、春分の日を
「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」と定めています。
私達は生物であり、自然の大いなる関係性の中の一部だと思おうと
道端の名もない花に対しても、見知らぬ人に対しても、
無財の七施で接する気持ちが芽生えてきます。



大智寺だより

平成 28 年 弥生
Vol.72

発行所
大智寺

岐阜市山県北野
668-1
電話:058-229-1532

《Mail》
hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi.ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去すべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

2月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます

春の托鉢のご案内

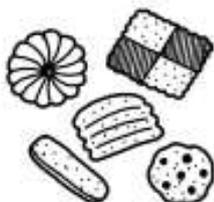
大智寺が属している報聖会（ほうしょうかい）では、
今月 春の托鉢を行います。
報聖会とは、三輪・藍川地区の約10ヶ寺ほどのお寺が
宗派を超えて一緒に仏教活動をしており、そのグループの名前です。



大智寺周辺の托鉢予定日は、3月30日（朝9時～11時）です。
出屋敷、北野、西山、門屋をみんなで手分けして回ります。
ここで集められた浄財は、歳末たすけあい募金や檀信徒大会に
使わせていただきます。

どうぞご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～
（実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋）



お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc
わからないこと 質問帳 ⑳



「とにかく般若心経を唱えとれば、いいんやよね？」

今月のお彼岸には、日頃忙しい方でも
各自お仏壇の前で手を合わす機会を設けられることと思います。
そんな時、般若心経をお唱えするだけでも十分ですが、
せっかくなのでぜひ、その後に「普回向（ふえこう）」も一緒にお唱え下さい。



普回向とは、何のために修行し、般若心経を唱えたのかを伝える
書画の為書きのようなものです。

「願わくばこの功德を以ってあまねく一切に及ぼし
我らと衆生と皆共に仏道を成ぜんことを」
この一言が普回向です。

簡単に解せば

「自分が修行して積んだ善行の功德を、すべての人々や生き物一切に
平等にめぐらし、自他の区別なく共に救われますように」
ということになります。
父母が亡くなった後、恩に報いようとする心は誰しも持っていますが
自分の縁者のためだけにお経を読み供養するのではなく
広くすべての者（衆生）にこの功德を振り向けようとする言葉が普回向です。



明治時代に活躍された高田道見という老師の言葉に
「世間の事々物々およそ回向ならざるものはなかるべし」とあります。
物を売買して商いをするのも、畑を耕し作物を作るのも、
職人が仕事に励み、猟師が魚を釣るのも、
自分のため、自分の縁者のためにだけするのではなく
めぐりめぐって広く世の中のため、回向の心で行われるものだ、とのこと。

自分の唱えるお経だけでなく、日頃の行いも含めて
「みんなのため」という回向の心を持てれば、お彼岸の功德になるのではないのでしょうか。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31ページより

22

「むじょう かげ さそわれて たちまちこのよ おわるとき
無常の風に誘われて 忽ち此世を終る時」

「雨」

雨の音がきこえる

雨が降っていたのだ

あのおとのようにそっと世のためにはたらいていよう

雨があがるようにしずかに死んでいこう

（八木重吉）

自分の生死は、どっぴり大自然におまかせしたものなのだと思底思うと
今まで「どうにかしたい、守りたい」と一生懸命握っていた手の力が柔らかくほどけていきます。

地位や名誉も財産も必死にしがみつくものではなくなくなっていきます。

固くなった自分の握りこぶしを、一つまた一つとほどいてカラッポの手にすることで
固執していた気持ちが解き放たれ、入れ替わりに本当の自由が手に入るのかもしれない。

空に浮かぶ雲、川を流れる水のように在るべしと、修行僧のことを「雲水（うんすい）」といいます。

無理なく生きるコツは、いつも大自然が静かに教えてくれているようです。

自分も自然の一部なのだと思うと、納得できます。

春のついで

お寺では各種椿の競演が楽しめる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

春になると楽しみなのが山菜です。無類の天ぷら好きにはたまらない季節です。フキノトウ、たらの芽、こごみ、シイタケ、ユキノシタ、何でも適当に採ってきて、アツアツの天ぷらにしてはおぼると、ロイっぱいに春が広がってきます。この時期になると毎日でも天ぷらが食べたいと思ってしまう程です（笑）

さておいしい天ぷらを作るには小麦粉が欠かせません。色々な料理に使われる小麦粉ですが、太古の昔にはこの小麦が物々交換する際に尺度として使われていました。その後、保存がきかない小麦の代わりに、人々は貨幣を発明し、富を蓄えるようになりました。

同じ富でもお金は財布にしかたまりませんが、心の財産は目や鼻、耳、口から自分の体に入ってきます。友人の笑顔や恩師の言葉、卵焼きの味や母の歌声、亡き人になでられた頭の感触、その時その時消えていくように思われても、枯れることなく心に残っています。

目を閉じれば、鳥の鳴き声もメダカの泳ぐさまも、健気に咲くたんぽぽも、いつの間にか自分の心にどんと蓄えられ、生き生きとした財産になっていることに気づきます。「瞬間」を味わう天ぷらに舌鼓打ちつつ、この春もがま口を開けるように、めいっぱい五感を使おう！と大きく深呼吸する日々です

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

春らしく シンプル蓬の焼き生麩

- ① 酒、みりん、しょう油それぞれ 100cc を鍋に入れ、沸騰したら冷ます。
- ② 生麩 300g を 1cm 幅に切り、冷めた漬けだれに 1 時間入れておく。
- ③ フライパンに油少々熱して、生麩をキッチンペーパーで拭いて焼く。
- ④ 裏表ともにこんがり焼いたらできあがり。



春、山の土手にはたくさん蓬が茂ります。手軽に市販の蓬生麩を焼いて食卓にも春を呼び込みます。植物性タンパク質である麩は、精進料理に大活躍するおいしい食材です。特に生麩はもちもちした触感があり、焼き立ては美味。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

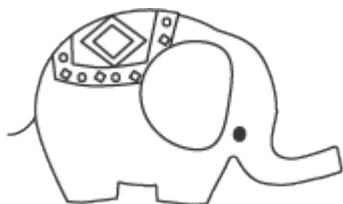
初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

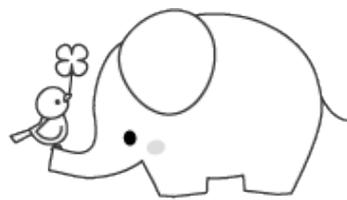
3月27日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

2月写経会 備忘録

まだ寒さは残るものの、梅も満開を迎え春らしくなってきました。今回は恐ろしい(?)落語「死神」を楽しみつつ、呪文について考えてみました。故知般若波羅蜜多から先の部分には、どれほど呪文が素晴らしいかが書かれています。さて般若心経も終盤を迎えます。今回は春らしく桜葉入りの三色棹もので一服しました。



大智寺の本尊様に見守られつつ、
故人の新たな一步を本堂からお見送りする
そんな一般葬を希望される方々へ



本堂を会場に営む 一般葬
あれこれ

3 通夜までの準備 ②受付について

一般葬の場合、家族以外に近隣の方や職場の方、友人など会葬者をお迎えするので
受付を設営することとなります。

受付では、香典や通夜見舞を管理し、会葬者に会葬御礼の品をお渡しします。
受付の近くには、会葬者が記帳するための台を用意します。

会葬者が100名を超えるようであれば、
式中は本堂正面の扉を開け、外から焼香いただくこととなるので
本堂正面の屋外に受付台及び記帳台を設営します。
会葬者が100名に満たないようであれば、
お寺の大玄関より皆様お入りいただき、本堂内にて焼香いただくので
大玄関と本堂の間の部屋に、受付台及び記帳台を設営します。

受付に必要な物品は、葬儀社の方がご用意くださいます。
通夜、葬儀での受付係は、葬儀社に一任することもできますが
信頼できる近しい関係の方にお任せすることもあります。



ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、
ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、
その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。
必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、
葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めて
まずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方が
いなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒に
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。
永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから
「完全個別永代供養墓」といいます。
詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、
ご予約の上 ご来山ください。